

宮城県色麻町

持続可能な未来をつくる、色麻のいま。

2023.06.01

Vol.

13

June, 2023

第 13 号

隔月 1 日発行

しかま支え合い 情報誌



特集

できることを地域の為に

地元の人だから できることを、 地域のために還元したい。

時代の変化と コロナ禍の影響

「歩いて通う姿はすっかり見なくなりましたね」と話すのは、南大地区の玉木雄一さん（六十四）。玉木さんは長年、色麻町子ども会育成会の会長を務めています。

「春の交通安全集会在が印象に残っていますね。昔は子どもも人数も多かったですし、豚汁を出したりして、盛大にやりましたね」と、懐かしそうに話します。ジュニアリーダーの活動内容や、親御さん向けの研修会があることも、入って知ることでも多かったそうです。「入ってみると行事がたくさんあって、やりがいも感じてきました。それだけに、コロナ禍で何もできなかったのは残念でしたね」と、少し寂しそうに振り返っていました。



交通安全集会で挨拶をする玉木さん。

県子連主催のKYT講習での様子。

遅れて入った 地元の消防団



玉木さんは二十七歳から消防団に入っています。「昔は、消防団に入るとすれば高校を出てすぐ入るものだったので、二十七の時に誘われた時は、なんで誘われたのかな?と思いましたが。そしたら大会要員だったんです（笑）」と笑います。地区の消防団で操法大会に出場することになり、その要員として召集されたことを後から

知ったそうです。「当時は日中に練習したんです。私はもう勤めてましたから、会社を休まないといけない。町長名義で休暇願を出してもらって、一週間休みをもらいました（笑）」。当時は合併前で、大崎大会では十五チームほど出場していたそうですが、結果は九位だったそうです。以来、三十七年間、消防団を続けています。

子どものまちでの様子。



春の交通安全集会の様子。

地元の人にしかできないことがある 地域のつながりが大切

子ども会や消防団の経験から、気付かされることがあるそうです。

「やっぱりどんな時も、地元の人の力は必要だと思います。例えば火事があった際に、川の水を使うこともあるんですが、消防署の人は、川や用水路がどういう経路で流れているかは、すぐに分かりません。子ども向けの安全マップを作る際にも、どの道が安全かということも、地元の

人じゃないと分からないですからね」。

地元の人がいるからこ
ないことがあるからこ
そ、地域の組織があるこ
と、地域の人がつながっ
ていることが大切だと、
玉木さんは話します。
「なので私も、自分で
きること、地域のため
になることはやってい
こうと思っています」。
と、少しはにかんだ表情
をされて
いました。



南大地区の区長も務める玉木さん。ミニデイの様子。



住民防災研修を受講する玉木さん。



色麻町社会福祉協議会の評議員も務める玉木さん。評議員会の様子。

EYE'S



町内各種団体 対面行事 続々再開!

新型コロナウイルスとの正しい付き合い方も浸透し、町内で活動中の団体も、対面形式での行事を再開し始めました。

令和5年4月12日(水)には色麻町ボランティア友の会、令和5年4月23日(日)にはかっぱクラブしかまの通常総会が行われました。それぞれの総会には来賓の方々も出席され、各団体の活動に対する感謝や期待の声が寄せられました。

町の活気が戻りつつあります。



かっぱクラブしかま通常総会の様子。



ボランティア友の会通常総会の様子。

こども食堂研修会を開催しました

令和5年3月22日（水）、色麻町保健福祉センターにて、「こども食堂研修会」が行われました。講師に、認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえより、山角直史さん・六鹿篤美さんをお迎えし、全国の様々なこども食堂の事例を紹介していただきました。

こども食堂は、子どもの居場所としてだけではなく、高齢者の生きがいづくり・安心安全な地域づくり・食育・フードロスなど、多様な効果をもたらすことが分かり、参加された皆さんは、さらに学びを深めておられました。



むすびえの六鹿さん（前列左）と山角さん（前列右）



研修会の様子。

登録型お茶っこ会支援助成金のお知らせ

町内で高齢者等の集いの場として「お茶っこ会」の開催を年間10回以上行っている5名以上（5世帯以上）の任意団体様に、経費の一部を助成いたします。（※各支部で行っている、「お茶っこ会」は除きます。）高齢者が住み慣れた地域の中で、安心して暮らせるよう支援する様々な活動を対象としており、文房具代、弁当代、茶菓子代、印刷代、光熱水費、ボランティア保険料等の経費が対象となります。

助成総額は60,000円で、1団体につき10,000円を上限として助成いたします。申請用紙等は、本会事務局窓口でお受け取りになるか本会ホームページよりダウンロードしてください。令和5年4月1日から受付開始しております。

詳しくは、色麻町社会福祉協議会まで（tel.0229-65-2260）お問い合わせください。



申請用紙等ダウンロードページ URL
<https://www.shakyo.or.jp/hp/article/index.php?s=287&m=1823>



←申請用紙等
ダウンロードページ
QRコード

しまま支え合い情報誌 vol.13

発行：社会福祉法人色麻町社会福祉協議会

〒981-4122 宮城県加美郡色麻町四竈字杉成 27-2

TEL：0229-65-2260 FAX：0229-66-1713

E-mail：shikama.shakyo@vesta.ocn.ne.jp

URL：http://www.shakyo.or.jp/hp/287/

生活支援体制整備事業は、介護保険制度の地域支援事業の一つです。
しまま支え合い情報誌は、色麻町生活支援体制整備事業の一環として発行しています。